

札幌市 2023 年第 1 回定例市議会（2 月 13 日～3 月 10 日）

代表質問 石川 佐和子

2023 年度札幌市一般会計及び各会計予算、2022 年度札幌市一般会計補正予算、札幌市職員定数条例の一部を改正する条例案など議案 48 件が可決されました。一般会計の当初予算（骨格予算）は前年度比 2.6%増の 1 兆 1,922 億円と過去最大、建設事業費は市有建築物やインフラ施設の更新などにより前年度比 27.8%増の 1,335 億円となった。一般会計の市債残高は 2023 年度末で、1 兆 1,456 億円と 12 年連続での増加が見込まれ、市民一人当たりの市債残高は臨時財政対策債を除いた全会計で換算すると約 59 万円と大変厳しい財政状況となっています。人口減少・超高齢社会において、生産労働人口が減少する中、限られた財源と社会資源を有効に活用するとともに、市債残高を削減していくなど過度な負担を先送りしない市民の視点での財政運営を行うことを討論で要望しました。また、「ゲノム編集技術応用食品の食品安全性審査の実施や表示を含めた消費者への情報提供の在り方について改めて検討を求める意見書」など 6 件、「性的マイノリティに対する差別的な発言に抗議する決議」が可決されました。

質 問	答 弁
<p>1. 市民自治の取り組みについて</p> <p>(1) 秋元市長のこれまでの市政運営の評価について 秋元市長は自治基本条例をどのように認識、評価され、その重要性をどのような場面、どのようなツールを通して市民に訴えてこられたのか、また、自治基本条例をどのように育ててこられたのか、併せて伺う。</p> <p>(2) 市民参加条例の制定と市民参加の指標等について 現在、市民が市政に参加する機会としては、パブリックコメント、市民ワークショップなどを行っているが、手法的な手詰まり感があり、情報提供のあり方と市政への市民参加のさらなる充実が課題と考える。そこで、札幌市は市民参加をすすめるため、市民参加条例を制定するとともに、市民参加に関する指標づくり等に取り組むべきと考えるが、いかがか伺う。</p> <p>(3) 政策に関する評価への市民参加について 行政評価のサイクルの中に位置付けられる政策評価に市民が参加するためには、事業の実施に関する情報を共有することが不可欠である。そこで、行政評価を始めとする政策に関する評価への市民参加をすすめるため、政策に関する情報の作成と公開を市民に分かりやすく行うべきと考えるが、どのように取り組むのか伺う。</p> <p>(4) 子どもの参加の推進について 子どもの参加については、パブリックコメントだけではなく、たとえば子ども会議を設置するなど子どもが気軽に意見を表明し話し合う場を作るなど、子どもの参加を拡げ、子どもにやさしいまちづくりをさらにすすめるべきと考える。そこで、子どもの権利条例がある札幌市として、子どもの参加をさらに積極的にすすめるべきと考えるが、どのように取り組むのか伺う。</p> <p>(5) 常設の住民投票条例の制定について 2030 冬季五輪・パラリンピックの招致は市政の重要事項である。札幌市が招致の是非を決定する際に、その過程に市民がまちづくりの主権者として参画するしくみがないことは問題である。そこで、市政の重要事項については、市民の意思を確認することができるよう常設の住民投票条例を制定すべきと考えるが、いかがか伺う。</p> <p>(6) 公益通報制度の条例化について 職員等による不正が減少していない中、職員の公務員としての自覚を促すなど職員の意識を一層高めるべき。そこで、通報した職員が不利益を被らないための保護、通報内容を調査する機関の設置、確認された事実の公表、厳正かつ適正な改善措置など、公益通報制度の運用に係る諸事項を盛り込んだ公益通報条例を、まず制定すべきと考えるが、いかがか伺う。</p> <p>[再質問] 改めて、秋元市長の思いを伺う。秋元市長が市政運営で重要視しているという自治基本条例に則って、市長は常設型の住民投票条例を制定する意思はあるのか端的にお答えください。</p>	<p>1.</p> <p>(1) 札幌市自治基本条例は、将来にわたるまちづくりの基本理念を示すまちづくりの最高規範であるとともに、私が市政運営で重視する市民が主役のまちづくりという考え方を明確に表す、拠って立つべき条例であると認識をしている。こうした条例の重要性については、一般的な広報にとどまらず、常にまちづくりの主役は市民であることを念頭に置き、ワークショップやパブリックコメント、市民アンケートの実施など、市民参加による様々な取り組みを通して訴えてきたところ。また、条例の規定や条例に基づく施策、または制度について、過去 4 次にわたり、有識者や公募市民で構成する市民自治推進会議を設置し、継続して評価や検討をいただいております。その結果をさらなる市の取り組みに反映することで条例の理念に基づく市政の成熟を図ってきた。</p> <p>(2) 市民自治に基づく施策等の評価や検討を行う第 4 次市民自治推進会議において、市民参加条例の制定に向けて、まずは市民参加に係る機運醸成と市民参加の適切な評価手法の確立の取り組みが必要であり、直ちに制定に取りかかる段階には至っていないとの提言を受けたところ。これらを踏まえ、2 月 25 日に開催する市民自治を考える市民ワークショップにおいて、市民の目線、立場で様々な角度から議論をしていただくことを予定している。今後は、その結果等を参考にしつつ、市民の視点を取り入れた評価手法の確立を図った上で、引き続き、市民参加のありようを含め、検討をすすめていく。</p> <p>(3) 自治基本条例において、行政評価制度は、市民にその結果を分かりやすく公表することと定められており、市政への市民参加の前提となる情報共有や説明責任のツールとして重要な役割を担っていると認識しており、昨年度から評価制度の改善に着手してきているところ。今後は、市民が事業目的や進捗状況を的確に把握できるよう、評価調書自体を分かりやすいものへと改定するとともに、知りたい情報に気軽にアクセスできるよう、情報公開の手法についても工夫していく。</p> <p>(4) 札幌市では、条例を施行した平成 21 年から、子どもも参加する子どもの権利委員会において子どもに関わる様々な施策の取り組み状況を毎年検証し、子どもの市政への参加を促進してきたところ。その結果、全庁的に取り組みがすすんできており、第 2 次戦略ビジョンの策定にあたっては、学校の授業の中で、子どもたちが人口減少などの課題をテーマに職員と対話し、具体的な解決策を提案いただいたところ。今後も、教育、環境、防災など様々な分野で子どもがまちづくりに参加する取り組みをすすめるとともに、社会の一員として札幌のまちづくりを担う子どもを育てていく。</p> <p>(5) 第 4 次市民自治推進会議の提言において、住民からの発意による実施という観点から住民投票の調査研究を始めるべきだが、その際には、間接民主制を採用する議会制度との関係を踏まえた慎重な対応が必要とされたところ。今後は、この提言等の視点を踏まえながら、引き続き、市民の意思を的確に確認できる手法や具体的なしくみづくりについて検討し、議会の皆様とも議論をしていく。</p> <p>(6) 公益通報制度は、内部監査機能の強化と自浄作用の向上に寄与するものであり、行政に対する住民の信頼確保にも資するものと認識している。札幌市においては、市政に対する市民の信頼確保に向けて、懲戒処分の指針を厳罰化し、令和 2 年度には、職員による法令遵守と適正な業務執行のため、内部統制制度を導入するなど、公務員としての自覚を高め、不祥事を防止する取り組みを全庁を挙げて行っている。公益通報制度もまたそのような取り組みの一つとして位置づけられるものであり、平成 18 年には公益通報に関する要綱を制定して以来、弁護士による外部通報窓口の設置や外部の有識者から成る委員会の関与など、制度の充実を図ってきているところ。今後も、公益通報制度の周知徹底を図るほか、市政に対する市民の信頼を確保するための取り組みを工夫しながら行っていく。</p> <p>[再質問] 自治基本条例の第 22 条に定めている住民投票のしくみは、市民の意向を確認する重要な手段であると同時に、市民が自らの意思を表明する意味でも非常に大きなことと認識しており、住民投票のしくみについて、札幌市としてすすめていかなければいけないと思っている。一方で、推進会議の中でも課題として提言があったが、例えば、住民投票をどのような範囲で行っていくのか、あるいは、その対象をどうしていくのかについて議論をしていかなければいけないと</p>

<p>[再々質問] 住民投票の対象となる「市政に関する重要事項」とは具体的にどのようなものが該当すると想定しているのか、また、秋元市長は、ご自身の判断として、冬季五輪・パラリンピックの招致は、住民投票の対象事項だと思っているのかどうか、お聞かせください。</p>	<p>考えている。市としては、住民投票の枠組み、制度ということを用意していくにあたり、様々な議論をすすめていく必要がある。</p> <p>[再々質問] 住民投票条例の対象となる事項、また、重要事項というものはどういうものが該当するのかという一定程度の客観的な判断ができるしくみも必要と思っている。そういう意味では、どういう対象にしていくのかというようなことも含めて、条例の制定という観点では議論をしていく必要があるだろうと思っている。住民投票条例を制定していくにあたって、どのような範囲、あるいは、その客観的な考え方というようなことについていろいろな議論をしていかなければいけないと考えている。</p>
--	--